

次世代教育について

① グローバル人材の育成に向けて

背 景	目指す人間像	育成すべき資質・能力と態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京 2020 大会を契機とした、外国人とのコミュニケーションの機会の増加 ○ 社会・経済・政治をはじめ、あらゆる分野・場面でグローバル化が進展 ○ 企業等、組織内のダイバーシティ（多様性）が促進 ○ 海外留学や海外赴任を敬遠するなどの、日本の若者の内向き志向 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な人々と協働しながら、困難に負けず生き抜く力をもつ人 ○ 日本の未来を担い、社会の一員として、その発展に貢献する人 ○ 伝統と文化を尊重するとともに国際的な視野をもつ人 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 使える英語力 ○ 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 ○ 自国の文化への理解に基づく日本人としての自覚と誇り ○ 豊かな国際感覚と多様性を受け入れる寛容性

品川英語力向上推進プラン

- 豊かな国際感覚を醸成するとともに、「使える英語力」を身に付け、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

・指導体制の充実

第 1～4 学年：楽しむ英語		第 5～9 学年：使える英語	
第 1・2 学年	第 3・4 学年	第 5・6 学年	第 7～9 学年
週 1 コマ (年間 35 時間)		週 1～2 コマ (年間 50 時間)	
担任 + ALT	担任 + JTE	担任 + JTE	教科担任 (+ALT (年間 10 時間))

・ジュニア・イングリッシュキャンプ（4年）

自校または TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) での 1 日体験

・品川オンラインレッスン（8年）

インターネットによる、海外（フィリピン）の講師とのマンツーマンの授業
 (平成 30 年度 6 校＜大崎中・浜川中・富士見台中・八潮学園・荏原平塚学園・豊葉の杜学園＞ 年間 25 分×10 回実施)



担任と ALT による授業



品川オンラインレッスン

○ 成果の検証

・4 技能テスト（9年）

9 年間の英語学習の成果を総合的に判断するため、4 技能（「聞く」・「読む」・「話す」・「書く」）のテストを実施

○ 教育課程外での取組

・品川区グローバル人材育成塾（7～9 年の希望者）

ALT による放課後の少人数英会話レッスン（9 月から翌年 7 月まで年間 25 回）

・イングリッシュキャンプ（品川区グローバル人材育成塾受講生のうち希望者）

福島県のブリティッシュ・ヒルズにおける 2 泊 3 日の模擬留学体験（夏季休業中）



イングリッシュキャンプ



オリンピック・パラリンピック教育（全校・園で実施）

世界ともだちプロジェクト

- 世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重する態度を養う。

- ・「学習・交流国」5 か国についての調べ学習
- ・「学習・交流国」の留学生や大使館職員等との直接的、間接的な交流

(実践例)

- ・イギリスの現地校との、スカイプを通じた生徒同士の交流（品川学園）
- ・インドネシア大使館やインドネシア人学校の生徒との交流（第三日野小学校・鈴ヶ森中学校）
- ・オークランドの教員による授業（大原小学校・荏原第五中学校・八潮わかば幼稚園）
- ・タイ、ザンビア、セルビア、ブラジル大使館職員とのグローバル給食を実施（第四日野小学校・浜川小学校・台場小学校・大原小学校・小山台小学校）



タイ政府職員との交流(小山小)

日本の伝統・文化理解

- 日本や東京、品川の伝統・文化の素晴らしさに気付き、それを理解し、他の人に伝えようとする態度を養う。

- ・茶道や華道、着付など伝統文化の体験
- ・地域の歴史・文化の学習

(実践例)

- ・茶道体験（市民科）
- ・大森貝塚についての調査・発表（大井第一小学校）
- ・地域の方を講師とする品川宿巡り（城南小学校）
- ・喜多能楽堂での能鑑賞・体験（城南小学校・浅間台小学校・戸越台中学校）
- ・十二単の着付体験（荏原第六中学校・荏原平塚学園）



茶道体験(荏原平塚学園)

次世代教育について ②プログラミング教育

プログラミング教育の考え方

◆プログラミング教育導入の経緯

平成 28 年 6 月 小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とプログラミング教育に関する有識者会議「議論の取りまとめ」
 12 月 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会)
 平成 29 年 3 月 小学校学習指導要領(公示)
 6 月 小学校学習指導要領解説 総則編 公表

◆プログラミング教育導入に伴う社会的背景

- ・職業生活をはじめ、学校での学習や家庭生活など、あらゆる活動にコンピュータからもたらされる情報を適切に選択・活用して問題を解決していくことが不可欠な社会が到来してきている。
- ・コンピュータを理解し、上手に活用していく力を身に付けることは、あらゆる活動においてコンピュータ等を活用することが求められる社会を生きていく子どもたちにとって、将来どのような職業に就くとしても極めて重要なこととなっている。

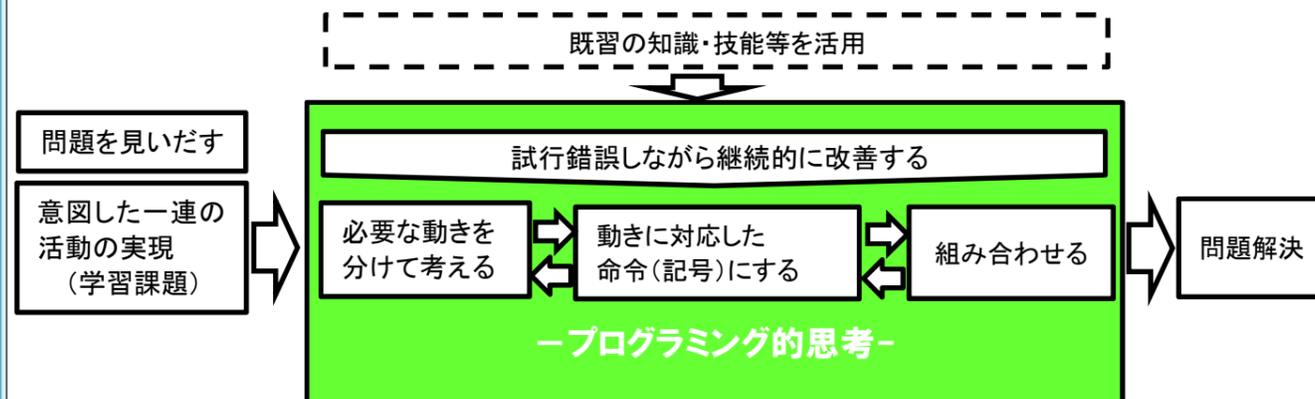
(平成 30 年 3 月 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」より)

◆学習指導要領(総則)への位置づけ

- ・「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」

(学習指導要領(総則)「第 3 教育課程の実施と学習評価 1-(3) イ」)

◆プログラミング的思考



(平成 30 年 3 月 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」より)

◆プログラミング教育のねらい

- ・「プログラミング的思考」を育む
- ・プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることに気付く
- ・コンピュータ等を活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育む
- ・各教科等での学びをより確実なものにする

(平成 30 年 3 月 文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」より)

区立学校における具体的な実践

◆京陽小学校の実践例

<平成 28 年度>

東京都教育委員会言語能力向上拠点校の指定を受け、研究主題を「デジタルテクノロジーの書き手を育てる ～プログラミングを用いた課題解決学習～」として研究を推進した。

6年生(市民科)が、1年生のためにゲームのプログラミングを考え、試行錯誤する活動を実践。身近な問題を解決しながらプログラミング的思考の育成、プログラミングの楽しさや良さを味わうことができた。

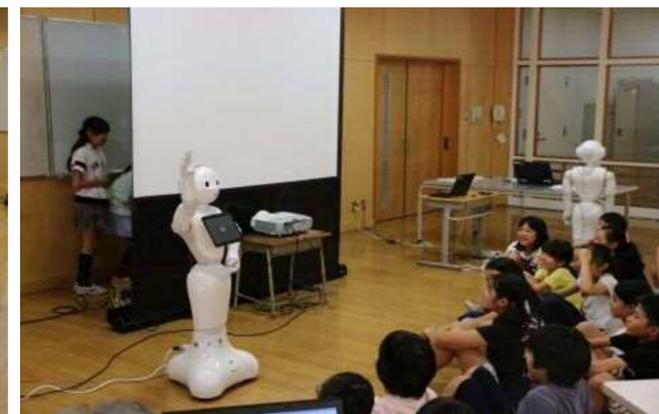


4年生(理科)において、プログラミングソフト「スクラッチ」を活用した生き物図鑑作りを実践。植物や昆虫の写真から解説を表示させるなど、自分なりの考えをプログラミングすることで、学習内容の理解を深めることができた。

◆第二延山小学校の実践例

<平成 29 年度>

教育総合支援センターのモデル授業として、IT企業と連携し、「プログラミングを体験しながら、『ペッパー』を動かしてみよう!」という単元を5年生(市民科)にて実施した。「ペッパー」にどのような読み聞かせ動作をプログラミングするか、グループで話し合うことで論理的に考えていく力の育成につながった。



◆平成 30 年度プログラミング教育実践校

- 都指定プログラミング教育推進校・・・延山小学校、第二延山小学校
- 品川ルネサンス推進事業……………延山小学校、第二延山小学校、御殿山小学校、旗台小学校、上神明小学校、鮫浜小学校